

科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書

平 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22530971

研究課題名(和文)材料, 場, 情報等での「あそび」体験を活かす<造形表現・鑑賞>題材開発及び授業設計

研究課題名(英文)Research for the development of *Artistic Expression* topics and *Appreciation* materials which enable the utilization of experiences from *Playing* with materials, places and information, etc. and the design of its teaching course

研究代表者

宇田 秀士(UDA Hideshi)

奈良教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20283921

研究成果の概要(和文)：研究課題名にある，<材料，場，情報などでの「あそび」体験>とは，造形活動における子どもの「原体験」「試行錯誤」「教科や領域を横断するような思考活動」などを象徴的に示した表現である。まず，美術教育史におけるこれらの「あそび」体験の変遷を整理し考察した。また，「あそび」体験を活かすことのできる<造形表現>題材や<鑑賞>題材の開発を行い，小学校，中学校などで実践し，その検証をした。そして，大学教育や現職教育などでの教師教育プログラムに反映させた。

研究成果の概要(英文)：The "experiences from *Playing* with materials, places and information, etc." as used in the research title represents symbolically children's *primal experiences, trial and error* and *interdisciplinary thinking*, etc. in artistic activities. Firstly, the transition of these experience of *Playing* in the history of art education are digested and discussed. We developed the *Artistic Expression* topics and the *Appreciation* materials which enable the utilization of experiences from *Playing* and, then, they were put into practice at elementary and junior high schools for verification. The results were reflected in a teacher training program at college and for incumbent teachers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学(図画工作・美術科教育学)

キーワード：美術教育，あそび，試行錯誤，教科横断，造形表現，鑑賞活動，材料体験，教師教育

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで「造形遊び」の理念を基調とする小学校図画工作科と「素描など基礎的な能力の定着を行い、生涯学習の礎」にしようとする中学校美術科を繋ぐ方策を探究してきた。そして、この連携の鍵となるのは、小中双方の教師が造形活動における「あそび」体験の有用性を十分に認識し、活用することであると考えた。

2. 研究の目的

美術教育史におけるこれらの「あそび」概念(造形活動における子どもの原体験，試行錯誤，領域横断的な思考活動など)を整理，考察したうえで、「あそび」体験を活かす「造形表現／鑑賞」題材開発とその実践検証を行い，教師教育プログラムに反映させようとするものである。

3. 研究の方法

(1)「研究課題1 美術教育における「あそび」概念の変遷」 大学の場において，美術教育における「あそび」体験の変遷と概念を文献や史料などをもとに整理・考察する。このとき，随時，海外共同研究者と情報交換し，国際比較の視点をもつ。

(2)「研究課題2 「あそび」体験を活かす「造形表現・鑑賞」題材開発と実践・検証」 上記の課題1をふまえ，連携協力者とともに課題2の「単元・題材」開発の素案を作成する。この素案について，小学校，中学校，高等学校の教師をメンバーとする研究協力者との研究会の場において検討した上で，各メンバーの勤務校での実践・検証をする。「遊び」を

活かした工作や描画活動，表現活動に繋げる「鑑賞あそび」などの「単元・題材」開発を進める。このとき，大学においては代表者が，コンピュータ・システムを整備し，このシステムにより学習資料，教具を作成し，メンバーの各勤務校に配布する。

(3)「研究課題3 美術教師教育プログラムへの展開」 課題1，2の成果をふまえて，プログラムを作成し，大学教育及び現職教員研修会などで実施する。このとき，教師が内包する「意識-規範・文化」(実践を推進する意識とその根底にある規範や文化)の視点(図1参照)に留意しながら行う。

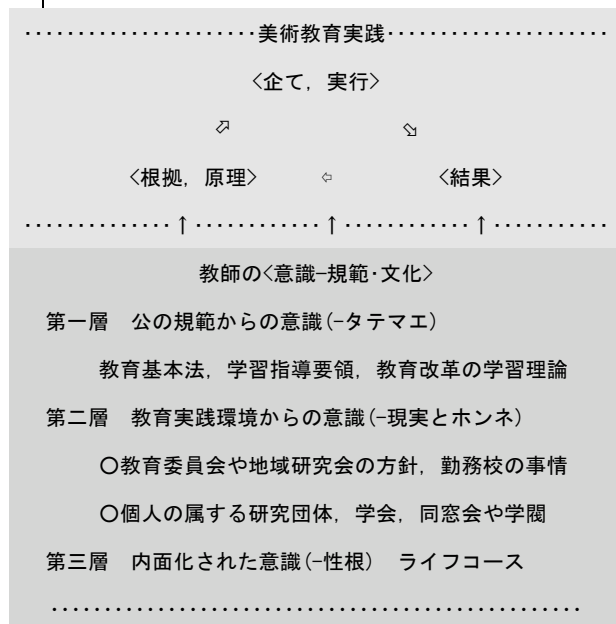


図1 美術教育実践における教師の「意識-規範・文化」

4. 研究成果

(1)「あそび」論を活用した実践家・研究者の一人である乾一雄(1920-1992)は，自身が所属した大阪児童美術研究会の主張である「一本線」描法に学び，これを磨く中で，

独自の「遊び」の構想と実践を築いたと考えられる。

(2) 乾の論考「遊びと労役と娯楽と」(1965-1968)では、昭和40(1965)年前後の社会状況をふまえ、教育全体に「遊び」の復権を訴えた上で、図画工作科指導の要諦として、
 <「遊び」の原理>を示した。また論考「子どもの造形性を育てる指導」(1976)で示した
 「遊び」の原理にもとづく造形表現実現の過程-自主、集中、継続>(図2)は、子どもの実態に基づいたきめ細やかな学習過程モデルとなっている。

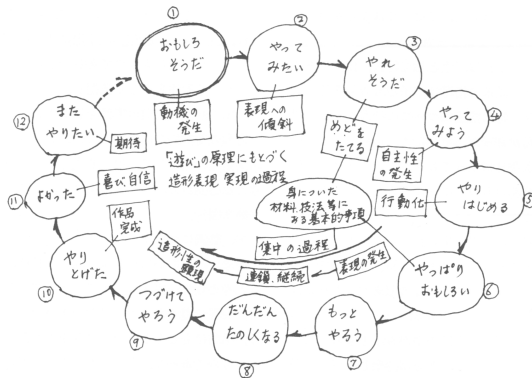


図2 「遊び」の原理にもとづく造形表現実現の過程

(3) 乾にみられる「遊び」の精神に基づいた美術教育の構想は、内発的動機づけや「自己効力感」などの現在の学習理論にも通じる内容を含んでいる。この「遊び性」を活かして教科活動を行おうとする理念は、学習指導要領図画工作科における「造形遊び」の趣旨と同根を持つと考えられる。

(4) 乾が校長を務めた大阪市立大開小(1978-1979)の実践研究では、子どもの自主的な造形活動への動機を引き出すために「きっかけ題材」を設定した。この題材は、活動のきっかけをつくり、それによって引き出される活動の中で、造形活動にある基本的な事柄を指導するという意図も持っている。

(5) 「きっかけ題材」では、子どもの生活空間にある事柄を対象として、子どもが楽しんで学べ、操作や技法から始まる形をとっている。子どもが、具体的な技法や造形操作をしながら、感動を味わい、基本を身につけるという方法は、学校という限定された時間と空間の場では、有効な手法であるといえる。これは、当時、創造美育運動の弊害として残っていた<技術指導の過度の排除>をのり越える意味があったといえる。

(6) 昭和52(1977)年の学習指導要領における「造形遊び」導入のきっかけとされる大阪「Doの会」の教育実践には、昭和45(1970)年前後の時代状況や現代美術の動向が色濃く見られる。アクションペインティングや環境芸術に示唆を受け、具体的な素材と場を与えて、そこから子どもたちが自由に発想し、展開する授業を構想・実践した。「造形遊び」の「教科内容」としての原形がここにある。

(7) 以上の「あそび」を活かした教育実践の変遷をふまえて、いくつかの題材を開発した。題材「檜端材ブロックに挑む心地よい形を探ろう(小6)」では、素材の匂いや肌触りなど子どもに五感で味わう楽しさを感じとらせた。木という素材に対する「原体験」を形成するとともに、木に挑むことそのものに価値がある題材であった。「土粘土で、かたちを見つけよう」(小4-6)では、粉末粘土から粘土を作る過程をふまえて、塊表現をさせた。体全体を使っのダイナミックな形づくりに価値があった。

(8) 題材「思い出の道をつくろう(小5, 協同制作)」では、1年間の思い出をローラー、クレパスなどの道具、材料を生かしながら、4人のメンバーの協同活動も活かし、模造紙いっぱい表現した。素材体験での試行錯誤を活かした活動になっていた。「牛乳パックで、あら不思議 小3-6」では、簡単

なしかけから、試行錯誤をとおして、面白い動きが生まれることを子どもが実感した。単純ながら、動き方が豊富で多様な学年に活用しやすいことを確認した。

(9)「五味太郎『ビビビ』の絵本からの展開-音のでる絵本づくり 小4」では、絵本から文章を無くしたものを用意して、鑑賞させ、電波の形に気づかせた。形から擬音語を感じ取り、それを絵本づくりという表現に結びつける活動であった。イメージ化するときの言語化の力を利用するなど「教科や領域を横断するような思考活動」を活かしていた。「百鬼夜行絵巻にせまる 小3-中1」では、実物大の絵巻と画像を併用し、絵巻表現の文化理解において実感をともなわせた。また、絵巻に詞書がないため、自由に発想を抱くことができ、そこからの表現活動へ結びつけがやりやすいことを確認した。

(10) プレ教師教育段階にある大学生に、学校現場における「あそび」体験が多数含まれる総合的な造形表現活動を指導できる素地を形成する意図をもった授業を行い、これを考察した。学生は、自らの協同学習の体験から、これにおけるメンバーの意識の変化、協同学習の醍醐味と難しさへの気づきを感じていた。

(11) 学生がこの活動で用いる用具の習熟度は、最初は高くはなかったが、基本練習の徹底と応用場面での使用により、その習熟度は高まった。また、多様な材料を扱う体験をして、材料や用具に対する自信も芽生えた。

(12) 学生は、以上の体験をふまえて、小・中学校などの学校現場での「総合的な造形表現活動」を考察することにより、より実感の伴った指導観を得た。特に、構想上の理想と制作の現実にはギャップがあり、理想を大切にしながらも現実的な対応にふみ出す指導の必要性を実感した。

(13) 現職教員の研修会(免許更新講習会、奈良市研修会など)では、上記の成果をふまえ、具体的な題材を示し追体験させながら研修を行ない、一定の成果を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計12件)

① 宇田秀土「「遊び」を活かした美術教育実践の構想(1)-乾 一雄の美術教育の構想-」『奈良教育大学 教育実践開発研究センター研究紀要』第22(通算36)号, 2013, 査読有, pp. 35-43,

<http://near.nara-edu.ac.jp/handle/10105/9298>

② 宇田秀土, 増田金吾, 長谷川哲哉, 山田芳明, 立原慶一, 丁子かおる, 永守基樹「協同体の〈磨きの場: 批評〉」『美術科教育学会誌』第34号, 2013, 学会からの依頼執筆, pp. 509-546.

http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN10180722_ja.html

③ 宇田秀土「図画工作・美術科授業におけるICTの活用-「百鬼夜行絵巻」にせまる授業」『平成24年度奈良教育大学 学長裁量経費[教育研究改革・改善プロジェクト経費]「ICT教育」に対応する大学の授業実践の研究」報告書』2013, pp. 9-10.

<http://www.nara-edu.ac.jp/PRIVATE/KAIKEI/gakuchousairyou-report2013.htm>

④ 栗山誠「図式期における子どもの描画過程にみられる「動きのイメージ」-視覚的文脈と物語的文脈に注目して」『美術科教育学会誌』第34号, 2013, 査読有, pp. 177-189.

http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN10180722_ja.html

⑤ 栗山誠「自分人形をつくってリズムにのっ

- て踊ろう」『近畿音楽療法学会誌』第 11 巻,2013,学会からの依頼原稿, pp.31-34.
- ⑥ 宇田秀土「総合的な造形表現活動」における指導力の育成—大学授業「総合演習(アートの活動)」の実践事例研究—『奈良教育大学 教育実践開発研究センター研究紀要』第 21(通算 35)号,2012, 査読有, pp, 27-36.
<http://near.nara-edu.ac.jp/handle/10105/8416>
- ⑦ 栗山誠「図式期における子どもの画面構成プロセスの研究—視覚的文脈と物語的文脈に注目して—」『美術科教育学会誌』第 33 号, 2012, 査読有, pp. 187-199.
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009437617>
- ⑧ 栗山誠「幼児の“描きながらイメージを広げる” 描画の研究—描画手順と意味の変化」『大阪総合保育大学紀要』第 6 号, 2012, 査読有, pp. 149-163
- ⑨ Uda,Hideshi, Development of the Program for *Playful Art Study(Zokei-Asobi)* in Training for Japanese Elementary School Teachers: Teachers as Providers of Time, Space, Place and Materials, *Proceedings of the 33rd InSEA(International Society for Education through Art) World Congress, Budapest, Hungary, June 2011(DVD)*, 査読有, pp.1-9.
- ⑩ Uda,Hideshi, Japanese Art Education: Introduction of *Zokei-Asobi(Playful Art Study)*, *International Journal of Education Through Art* Volume 6 Number 2, Intellect Ltd, UK, 2010, 査読有, pp.229-242,
<http://www.intellectbooks.co.uk/journals/view-issue,id=1875/ISSN:1743-5234>
- ⑪ 栗山誠「幼児の“描きながらイメージを広げる” 描画の研究—描画手順と意味の変化」『大阪総合保育大学紀要』第 5 号, 2011, 査読有, pp. 105-114.
- ⑫ 宇田秀土, 金子一夫「研究の目的とその実現にむけて」『美術科教育学会誌』第 32 号, 2011, 学会からの依頼執筆, pp. 541-550.
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008799326>
- [学会発表] (計 8 件)
- ① 宇田秀土「「遊び」を活かした美術教育実践の構想(1)—大阪児童美術研究会と乾一雄(1920-1992)の美術教育—」第 35 回美術科教育学会島根大会(島根大学) 2013. 3. 29.
- ② 花篤實, 宇田秀土「「大阪図画」と「一本線」描法」第 35 回美術科教育学会島根大会(島根大学)美術教育史研究部会, 2013. 3. 28.
- ③ 宇田秀土「「総合的な造形表現活動」における指導力の育成—大学授業「総合演習(アートの活動)」の実践事例研究—」第 34 回美術科教育学会新潟大会(新潟大学), 2012. 3. 27.
- ④ 栗山誠「自分人形をつくって, リズムによって踊ろう(講演)」日本音楽療法学会第 10 回近畿学術大会(大阪総合保育大学), 2012.3.
- ⑤ 山崎彩乃「美術教育における「百鬼夜行絵巻」の教材としての可能性—小学校第三学年の実践事例研究」第 34 回美術科教育学会新潟大会(新潟大学), 2012. 3. 28.
- ⑥ Uda,Hideshi, Development of the Program for *Playful Art Study (Zokei-Asobi)* in Training for Japanese Elementary School Teachers: Teachers as Providers of Time, Space, Place and Materials, The 33rd InSEA(International Society for Education through Art) World Congress 2011 in Budapest, Eötvös Loránd University, (ELTE), Faculty of Science (TTK), Budapest, Hungary, 30th June 2011.
- ⑦ 宇田秀土「ドイツの小学校(基礎学校:Grundschule)におけるアート・プロジ

ェクトの可能性—日独国際比較の視点も交えて」第 33 回美術科教育学会富山大会(富山大学), 2011. 3. 26.

- ⑧ 栗山誠「幼児の描画行為を引き出す視知覚的文脈への着目」日本乳幼児教育学会第 20 回大会(関西学院大学聖和キャンパス), 2010.

[図書] (計 6 件)

- ① 浅野卓司・竹井史・山野てるひ編著, 東山明・栗山誠・森高光広・渡辺里恵・辻涼・片桐ひとみ他著『幼児の造形 ニューヒット教材集 1 絵画・造形あそび編』明治図書, 2012, 全 164p. (栗山担当部分 p. 46「どこまで続く長い道」, p. 53「人形の冒険」の実践事例)
- ② 浅野卓司・竹井史・山野てるひ編著, 東山明・栗山誠・森高光広・渡辺里恵・辻涼・片桐ひとみ他著『幼児の造形 ニューヒット教材集 2 手作りおもちゃ・立体造形編』明治図書, 2012, 全 164p. (栗山担当部分 p. 141「指人形を作ってあそぼう」)
- ③ 『奈良教育大学 教育実習の手引き-教育実習ハンドブック』2011 年 3 月, 全 260p. (宇田担当部分 pp. 114-116, pp. 167-168. 「7. 小学校図画工作科, 中学校美術科, 高等学校芸術科(美術, 工芸)」 「13. さらに研究を深めるための参考文献」)
- ④ 平田智久・小野和編 栗山誠・町山太郎・首藤晃・平山隆浩 他『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社, 2011, 全 142p. (栗山担当部分 pp. 100-103 第 2 部 実践編「イメージを広げる」)
- ⑤ 福田隆真ほか編著『美術科教育の基礎知識 四訂版』建帛社, 2010, 全 240p. (宇田担当部分 pp. 58-59, 64. 第 2 章造形遊び).

- ⑥ 中川香子・清原知二編著, 栗山誠・塩見知利・丁子かおる・西尾正寛他著『保育内容表現』みらい社, 2010, 全 174p.

[その他]

ホームページ等

奈良教育大学学術リポジトリ

<http://near.nara-edu.ac.jp/>

奈良教育大学美術科教育第一研究室

<http://mailsrv.nara-edu.ac.jp/~udah/udaken/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宇田 秀士(UDA Hideshi)

奈良教育大学・教育学部・教授 研究者番号: 20283921

(2) 研究分担者なし

(3) 連携研究者

栗山誠(KURIYAMA Makoto)

大阪総合保育大学・児童保育学部・准教授 研究者番号 10413379

(4) 研究協力者

岡田 陽子(OKADA Youko) 河南町立白木小学校・教頭/吉田 和子(YOSHIDA Kazuko) 王寺町立王寺小学校・教諭/尾西 啓充(ONISHI Hiromitsu) 平群町立平群西小学校・教諭/上島 昌晃(UESHIMA Masaaki) 大阪教育大学附属平野小学校・教諭/田邊 憲幸(TANABE Noriyuki) 茨木市立東中学校・教諭/黒田 幸恵(KURODA Sachie) 東大阪市立石切中学校・教諭/吉田 由衣(YOSHIDA Yui) 東大阪市立金岡中学校・教諭/山崎 彩乃(YAMASAKI Ayano) 神戸市立中学校・講師/石垣 倫生(ISHIGAKI Michio)/赤座 雅子(AKAZA Masako) 子ども絵画造形教室 Kids' craft 主宰